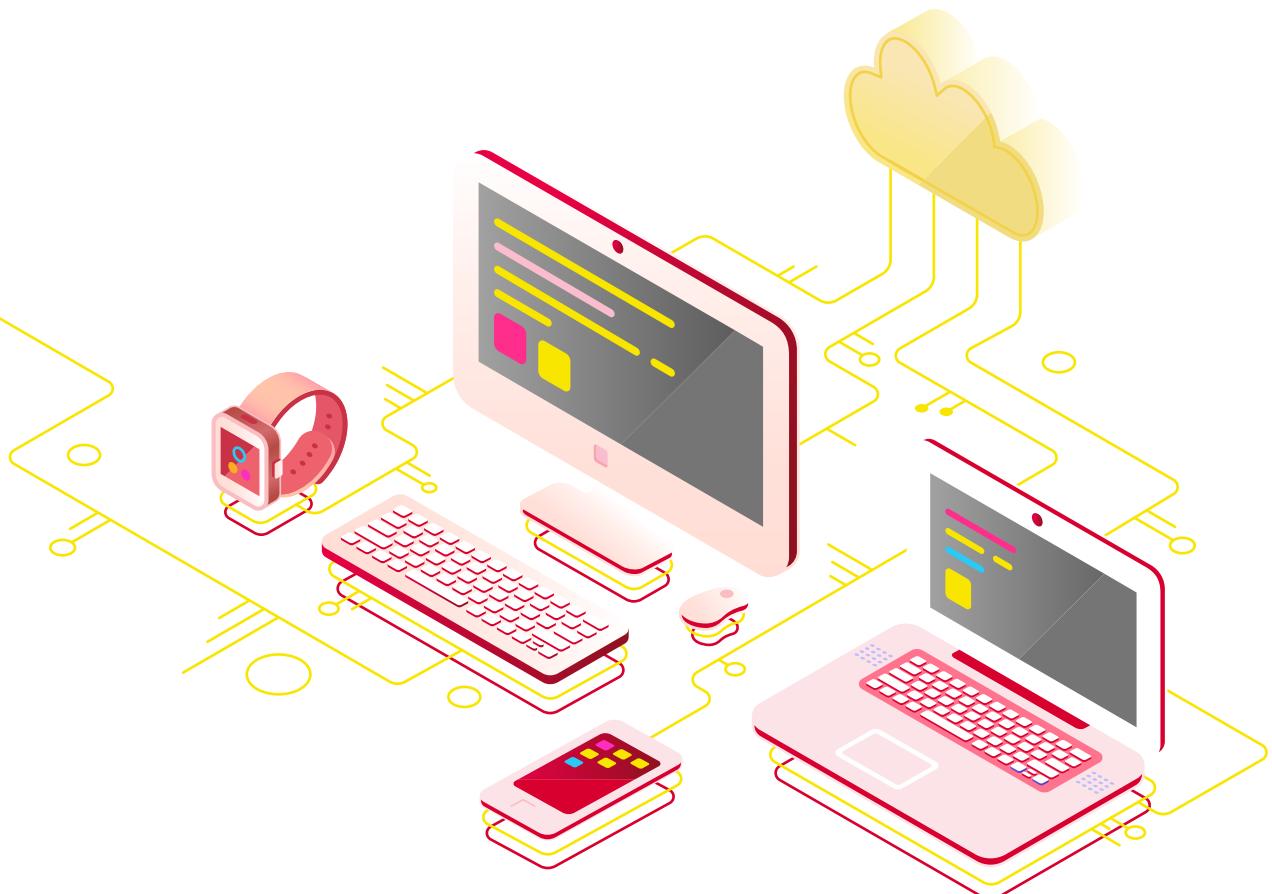


DEFISTOA

ディーファイストア はくしょ

Whitepaper v0.7



Contents

序文	3p
概要	4p
01 必要性	6p
02 目的	8p
03 機能及びサービス	9p
04 トークンの仕組みと活用	20p
05 R&BDグループ	21p
06 Founder	22p
07 ロードマップ	24p
08 法律上の告知	25p

序文 **Preface**



ディーファイストアは、デジタル環境において様々な金融資産を連結しようとするべくである。既にディーファイ市場を形成した暗号資産と実物資産の代表である証券やファンドの相互取引を支援するディーファイプラットフォームの利息、暗号資産の証券プラットフォームである。このような連結性プロジェクトのために弊社のプロジェクトは、従来の伝統的な金融が提供する様々な利息増殖プロジェクトを形式的に高めるために、機械学習モデルによる資産増殖と投資価値増大プログラムを自律的な差益取引ネットワーク基盤の金融プラットフォームでもある。

また、ディーファイストアは分散金融を示している。従来の金融システムの規制から脱した脱中央化(Decentralized)ではなく、権利が標準化して機会が均衡となる分散化(Distributed)金融を追求する。

従来の金融市場の生態系は、特定集団の占有物であった。分散化した金融生態系においては、新たに規定され構築されていなければならない。分散化した金融生態系の自由市場経済は人為的で意図的なインフラから、自律的で知能化したインフラに高知能基盤の社会の金融生態系に未来が構築されるであろうという仮定を念頭に置いたものである。

ディーファイストアは、このような未来金融ネットワークの超連結高知能の金融インフラに適したネットワークを構築して現実金融の法と制度的な装置を仮想金融市場のプロトコールに連結するために結成されており、行っているプロジェクトである。

ディーファイストアを通じて、誰でも金融の中心に立つことができ、誰でも金融市场で収益を得ることができる。

概要 **Outline**

ディーファイストは、様々な金融商品との間で仲介プログラムを運営するために発行市場として金融プログラムへの参加を促すための手段を提供するものであり、流通市場として様々な金融サービスを互いに仲介するプラットフォームとなるのである。

ディーファイストアにおいて金融取引市場の主なモデルである発行と流通市場のモデルを適切なデジタル生態系にリビルドし、デジタル金融が好循環な生態系を構築しようとする。

このような体系を構築するにあたり、従来の金融の発行と流通市場モデルを暗号資産市場のモデルに適するようデジタル変換を行う過程において、市場へ動機を与えるために様々な利息プログラムと資産増殖プログラムを提供しており、価値生態系への金融バッファー(Finance Buffer Process)を構築する予定であり、このような市場の生態系への参加者へのプレミアムを提供して、これを基に行う金融商品流通市場に効率的な資本商品仲介市場をデジタル化するつもりである。

ディーファイストアは、伝統的な金融市場のフレームとプロトコールをデジタル生態系において意図的な市場かではなく、数学的に知能化した自律参加フレームワークとして構築しようとしている。これは、暗号貨幣と実物貨幣、若しくは暗号資産と実物資産との間におけるスワップサービスの一種となりえる。

金融は誰でも参加できる権利が保障され、手軽で便利に取引されるべきである。更に、金融サービスの前提である安定性と信頼性が担保されるべきであり、継続可能性を有するべきである。加えて、リスク管理と資産の安定性保障案と資本の流れの匿名性を担保し、データの流れへの直観的な識別と透明な情報チェーンが作られるべきである。金融の発行と流通市場の安全な金融生態系となるためのネットワーク調節は、市場の自律と参加の適切な均衡(equilibrium)にある。

限界的な面から、金融への様々な価値の安定化手段としてレバレッジを活用すべきであり、好循環の持続可能な生態系が構築できるトーケンエコノミーが設計されるべきである。ディーファイストは、このために開発され、継続的に高度化している。

セキュリティー技術に関するアプローチも手軽で便利な方法で、認証のためのプロセスを毎回経るのは不便であることから、ファイトリストにリストアップされたユーザーは、認証プロセスを簡素化させ、便利にアクセスできるようUI/UXの面も考慮した。弊社のセキュリティーは、定型化されたASCIアクセスではなく非定型化を基盤にセキュリティーアクセス体系を高度化している。資産の取引は、利便性を高めるものの、資産の引出行為は、絶対的なセキュリティーと強力なコントロールがベースとなる必要がある。許可されていないユーザーは、アクセスをブロックし、アクセスとログインのパターンとの類似度を測定の上、資産セキュリティーと管理の安定性をより強化する方法のセキュリティーモデルを導入、運営している。

貨幣の脱中央化を違法資金として使用して資金逃避手段として悪用されるとの懸念の声がみられる。こういった懸念をなくすために、CBDCが登場したわけであり、開発過程においてこのようなマネー・ローンダリングを防止する案が出ている。機会が均等でなく、過程も公平でなく、正義に反する社会において脱中央化の風が吹いている。

ディーファイストアが実現しようとするソーシャル取引プラットフォームは、このような認知革命と関係革命のための問題を改善するために出発しようとする。ディーファイストアのビジネスの旅立ちがどこから始まり、ディーファイストアのビジネスグループの考えはどういったものなのか表す窓口となるだろうと期待している。

昨今の経済と資本の歪んだ生態系が形成された理由は、人が持っている多数の欲求をシステムでコントロールできないからである。コントロールしようとすればするほど、他の迂回路を見つけ出し裏で欲望をさらけ出そうとするのだ。その過程から得られた、価値の有する副産物を資本の再分配モデルによってビジネスインフレーションを構築しようとする。

01

必要性

現行の金融サービスの問題点は明確ではないが、改善されていない。むしろ、固着化した段階に踏み込んだ。ディーファイストアは、近い未来に訪れる分散化した金融サービスについて非常に苦悶した。これを基にこれから迫ってくる市場に準備しようとするのだ。

現在の仮想資産市場は、危険な賭場と大差ない。中央化された経済モデルの限界を批判しながら改善しようと登場したものの、むしろ中央機関よりもラルハザードが深刻なレベルに達した。不条理で不合理な主張を歪曲させ、市場参加者を混乱させている。ファンダメンタルについての分析が欠如した技術上の分析とのみ理解すべき市場が形成された。市場の心理的なファンダムが市場形成の背景となった。いつ弾けるか分からないチューリップバブルと似ている。

但し、暗号資産の技術的な価値は確かに存在する。実物市場の価値をデジタル市場に移行させた点、資産の性質をブロックチェーン技術を利用して実現させた点は実に素晴らしい。

暗号資産市場が維持している最も大きな理由は、貨幣の歴史的性質と暗号資産が類似であるから。例えば、チューリップは元の状態を維持できないが、ビットコインは永久にデジタルで原本を維持できる。金は酸化しないがために、不变性を有しているようにビットコインのメインネットもブロックチェーンで不变性を実現してきた。POW採掘の難易度によるデジタルベースの信頼プロセスによって希少性の価値も持っている。

暗号資産のチューリップバブルと同様の道を歩まないようにしなければならない。過去に1オンスの金を35ドルの価値で統一していたブレトンウッズ協定のように、暗号資産もまたグローバル市場を統合できる機構と協定で相互合意を導き出せるのであれば分散化した金融サービスの始まりであるといえるだろう。

暗号資産に関する話題の中心は当然ディーファイである。信用貨幣は、そのももには価値がないが、保証によって市場が形成され、保証の信頼プロセスによって作られている。信用を取引する社会に発展するためには、流通量の拡張が担保されなければならない。仮想資産の流動性拡張をディーファイを通じて実現している。ディーファイと信用貨幣をデジタルプロトコードに連結しようとする取り組みはCBCDにつながる。

ディーファイストアが提供しようとするサービスは、アクセス性の増大にある。以前のWeb2.0の出現によりアクセス性は短期間のうちに増大する。アクセス性の増大に比例して表現の自由と情報の歪曲も増大した。これにより、透明性のためのTCO(total cost of ownership)は減少したものの、信頼を受けるための証明プロセス構築のTCOはむしろ増加した。

これは情報の受け入れに対するTCOは、節減させたものの、情報の価値に対する証明と信頼を強化するためのTCOは増加させた。結果的に必要な情報を得るために不公正と不公正は消えたものの、情報の信頼性を評価するための不公正と不公正が新たに発生した。少数の既得権益集団により資源の消費が決定され、制度が固着化している。社会システムが高度に発展すればするほど、疎外される金融階層が増えるのだ。彼らに機会費用の選択機会を与えるためには、最大限現実的な観点から、金融サービスプラットフォームを構築することが求められる。

最大限の目的に合致する取引と、様々なサービスの可能性を提供するために、単純な可能性を実現可能なレベルまで引き出さなければならないと思う。ディーファイストアは、このような判断を基に仮想金融と実物金融を基盤に市場をリードするためのたった一つのスタート地点になろうとする。

02 目的

ディーファイストアは、ユーザー全員が暗号資産を取引する必要があると思わない。但し、全ての人が取引することができるように努めているのである。ディーファイストアは、現行の暗号資産の取引方式より更にアクセス性の高い方法で取引を行うべきであると考えている。これを実現するために、参加者の望んでいる取引の目的を最大限達成させようとしている。

最終的にディーファイストアは、ユーザーに高レベルで標準化させた最新の金融サービスを提供し、誰にでも資本増殖の機会を提供、既得権益集団との不平等な機会費用の間隔を減らす。実現可能なプラットフォームを通じて金融から疎外された集団を支援し、共に暮らす方法を提示しているのである。

ディーファイストアの追求している方向は、以下の具体的な目標9つで定義した。

1. 暗号資産のネットワークを最大限活用した。
2. 暗号資産を実物資産と交換する根本的なネットワークを提供した。
3. アクセス性を高め、参加の限界を克服させる。
4. 中間者、金融ネットワークとしての役割を行う
5. 得た機会の分だけ共有循環システムを通じて好循環生態系となるようにする。
6. 取引参加に関する情報をなるべく提供し、公正な取引環境を作り上げる。
7. 共有金融フレームワークを構築することで、ソーシャル金融環境を提供する。
8. デジタル価値の交換プロセスを手軽で便利に利用・活用できる環境を提供する。
9. 未来志向型の金融ネットワークを構築して、普遍的な参加と機会を提供する。

03 機能及びサービス

1. グローバルの自動為替レート変換による共通の呼び値取引

価格は非常に重要な金融指標である。従来の暗号資産の取引過程における価格ワイ客は市場の最も大きなリスクの要因となりえる。私たちは、現在DeFiを通じて、通貨膨張をしているが、この過程において価格を構成することとなる背景を明確に提示しなければ、社会システムにより更に大きな変動性リスクが反映される可能性が高い。従来の取引市場における価格の中心はドルであった。私たちはドルを基準として国別の為替レートマーケットで取引を行った。これは商品の基準がCME、BOEのように従来の先物約定取引市場が特化されており、規模の経済仕組み上、市場の占有規模に基づく取引環境の独占性は歴史的な過程から形成された体系化した既得権の環境であることから、十分に受け入れられる環境だ。

しかしながら、暗号資産のグローバル化の観点からアプローチしてみると、これは単一マーケットの通貨取引市場における説得力がありえるかもしれないが、共通マーケットを運営する観点からは、その限界点が存在する。このことから、私たちは商品の主要取引市場を中心に価格基準モデルを構築した。これは量の整数演算でその価値の谷を作らなければならず、個数を価格で分けるのではなく、価格を基準に個数を単位取引市場で決定するようにして、数式運営の可読成果市場の深さを高め、デリバティブ金融の基礎価格モデルを形成するためである。

KRW			USD			CNY			JPY		
sell	price	buy	sell	price	buy	sell	price	buy	sell	price	buy
122,236	61.00	-0.65%	122,236	0.053870	-0.66%	122,236	0.358773	+0.66%	122,236	5.621313	+0.66%
123,229	60.90	-0.50%	123,229	0.053871	-0.50%	123,229	0.358135	+0.50%	123,229	5.612098	+0.50%
136,433	60.80	-0.33%	136,433	0.053593	-0.33%	136,433	0.357596	+0.33%	136,433	5.602882	+0.33%
831,321	60.70	-0.17%	831,321	0.053605	-0.17%	831,321	0.357008	+0.17%	831,321	5.593667	+0.17%
-0.17%	60.50	8,360,222	-0.17%	0.053428	8,360,222	-0.17%	0.355832	8,360,222	-0.17%	5.575237	8,360,222
-0.13%	60.40	8,933,449	-0.13%	0.053340	8,933,449	-0.13%	0.355244	8,933,449	-0.13%	5.564021	8,933,449
-0.50%	60.30	8,984,452	-0.50%	0.053252	8,984,852	-0.50%	0.354556	8,984,852	-0.50%	5.556406	8,984,852
-0.66%	60.20	9,017,414	-0.66%	0.053163	9,017,414	-0.66%	0.354068	9,017,414	-0.66%	5.547591	9,017,414

市場が特定価格の中心となれば、Automatic Linked Price Modelにより自動で市場の規模によるマーケットの変化が自動で起きる。これは市場の価格移動を形成し、市場の価格形成主体が変更されることを知らせることで、市場の取引規模に応じて安定化した価値基準の構造が持てるようになる。取引呼び値への参加が高いマーケットが市場の規模を決定し、その規模は安定価格決定に重要な要因であり、市場への参加価格基準を通じて暗号資産の嗜好的(ファンダム性格を意味)取引ではなく、基本的な取引基準の基礎モデル価格を形成し、トーカン取引価格の決定に影響を及ぼし、流動性と換金性交換のリスクモデルとして活用できるようになる。

2. 約定取引(先物及びオプション)基盤の呼び値取引システム

暗号資産の市場価値とリスクヘッジは、金融が誕生した時からインフレーションモデルが先天的な性質によって決定されることから、必ず考慮すべきSecondary市場の重要な要素である。このような要素は価格を中心に理論上の背景を提示した多様な金融モデルとして市場において十分に検証された。

価格を基盤に理論を成立した多様なモデルが存在する。初期に日本の経済学者である長谷川氏によって提示された理論もあり、AINシュタインのブラウン運動方程式によるブロックショルズモデルの誕生から現存するほとんどのオプション価格モデルの基礎が作られた。

DeFiでインフレーション金融は、結局市場が持続可能な上昇を行えないことから、唯一のヘッジ手段は基礎価格の持続可能な上昇のみが存在することになる。私たちは、基礎価格の安定化と市場のバリューの乗数効果を続けるための方向性を構築するためには、従来の伝統的な金融価値計算のモデル化が重要であり、これは呼び値価格のモデルにも影響を与えることになる。

$$\begin{aligned} c &= SN(d_1) - X e^{-rT} N(d_2) \\ p &= X e^{-rT} N(-d_2) - SN(-d_1), \end{aligned}$$

$$d_1 = \frac{\ln(S/X) + (r + \sigma^2/2)T}{\sigma\sqrt{T}}$$

$$d_2 = \frac{\ln(S/X) + (r - \sigma^2/2)T}{\sigma\sqrt{T}}$$

- コールオプション方程式 $c = SN(d_1) - X e^{-rT} N(d_2)$
- フットオプション方程式 $p = X e^{-rT} N(-d_2) - SN(-d_1)$
- デルタ : 基礎資産価格の変動に応じたオプション価値の変動性
- セータ : 時間に基づくオプション価値の変動性
- ガンマ : 基礎資産価格の変動に基づくデルタの変動性
- ベガ : 基礎資産価格の変動に基づくオプション価値の変動性
- ロー : 金利の変動に基づくオプション価値の変動性

基礎価格と未来価格との間におけるBASISの間隔と時間の流れに基づき、平均算術化を通じて、市場の根本的な価値を解釈するにあたり、重要な基準として活用され得る。

私たちは、暗号通貨(仮想通貨)と暗号資産(仮想資産)を同じものとみなしており、これを解釈するのに困難が伴う。貨幣は信用システムモデルである一方で、資産は権利(証券)のモデルである。貨幣は取引の目的である一方で、資産は交換の目的である。取引と交換は広義的な意味では似たように解釈できるが、その詳細をみると、取引は社会システムを通じた信頼の交換価値を売り買いする一方で、資産の交換はお金の価値のように、価格を形成した特定の実体(仮想のデジタルコードを含む)を売り買いするという点において違う。

のことから、資産の仮定は取引する時点における価値の価格変化があつたとしても、実体を基盤としている。しかしながら、貨幣は交換する実態の有用性を根拠に信頼プロセス内において交換することができる一種の信頼の証票であることから、交換のための手段が貨幣の性質だといえるだろう。

貨幣は清算取引を仮定するのであり、資産は権利取引を仮定する観点から見なければならない。

私たちが約定しようとしている市場の価値を、私たちのプラットフォームは検証を行うことにする。このような理由は私たちは貨幣取引や為替レート基盤の差益取引ではなく、資産の交換価値を交換するモデルであって、その価値の根拠を金融が要求するプロセスとモデルに応じて定義された仮定の下、運営するためである。

ヘッジ取引や差益取引、空売りなどは従来の金融が持っている原理的なモデルではなく、社会システムのリスクをコントロールしようとする手段である。私たちは、暗号資産取引において有しているコントロール手段が即ち取引所であると判断している。オープンされたコントロールと市場のバランスをどのように数学的なモデリングと多様な公開市場の提案を通じて、民主的な運営モデルとして成長させるかを提示することができるとみなす信頼からである。

3. 高頻度な取引交換買付・売付システム

現在、世界中は、高頻度となったネットワークシステムが形成されている。既に高頻度取引プラットフォームが多数存在する。但し、従来暗号資産市場の金融市場においていう高頻度の観点で適合なモデルを十分に提示できないところに、その限界が存在する。

私たちのいう高頻度とは、通信の応答性だけ分散されたトラフィックをどのくらい精巧に統一、分配し、交換させるかについての物理的なネットワークモデルにおける同時性戦略を意味する。

最近、RDMA方式等の登場により、他のlegion間の物理的な情報を統一する仕組みが作られており、クラウド基盤において全世界が1Hopを経て、全てのシステムに連動されるだけ、PoP(仲介網)の交換技術がよくなつた。

但し、これらの交換網の運営技術は、今まで伝統的なネットワーク交換体系が基盤となるべきであるが、今のところ半マニュアルで構築することで、市場が形成されているという限界から、経験を基盤とする技術的力量が重要でもある。

ディーファイストアの技術チームはこのような問題についての長年にわたる経験を有しており、これを実証化して運営するよう設計しており、すでに立証もされていた。(認証機関は海外の運営ネットワーク証明機関を通じて検証データを提供しようとする。現在までは認証機関はないものと判断。自主評価の基準表を提示する必要があるだろう)

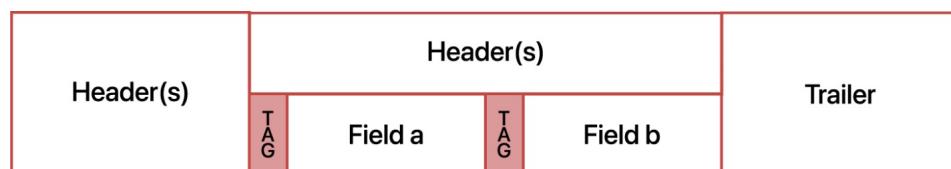
4. 暗号資産間のスワップ機能

DeFiの機能の種類として、私たちはこれをオラクルスワップとして定義している。私たちは私たちのみのスマートコントラクト基盤のAtomic Swapとして理解すれば適當である。しかしながら、P2Pを通じたスワップではないことから、オラクルスワップと定義したのである。ハッシュタイムラグは存在する。これはTXID生成手続きのうち、一部の手続きまでを経るようにしたのである。これはERC系列のコントラクト生成モデルにおいて主に適用するものの、他のメインネットにも作動するよう拡張して適用している。まだ、具体化されていないものの、私たちは、内部プロセスにより、このモデルを脱中央化モデルとして拡張することを考えている。

コントラクトを生成する段階において、特定段階を別途ハッシュモデルに盛り込む。この過程のコードを全て経るまで、次の段階には進まない。しかし、これを完全かつ安全に行うためには、互いに同意によるコントラクトの交換がなされなければならないことを全体にしなければならない。

加えて、私たちはこのような資産間のスワップが一種の異種間のトーカ交換を含めている。このため、他のコントラクトを構築する中央化されたメインネットモデルを有している。このようなメインネットモデルは、ファイナルチェーンという委任されたレビューテーション証明モデルを活用しており、ファイナルチェーンのメインネットモデルの一部コードを再使用して、ディーファイ取引所に特化された資産スワップモデルとして活用しており、これをオラクルスワップモデルとして成立した。

しかし、私たちは脱中央化の金融モデルを中心として発展するよりかは、swiftのように、私たちが交換する別途のMT(message Type)を提案して、発展していく、これを従来の伝統的な金融生態系と手軽に便利な交換としての目的を達成するよう発達させている。私たちは従来のswift message type referenceを基盤に暗号資産に適した交換モデルに合わせて、コントラクトをビジネスインフラに結合するためのフレームワークを構築しながら、公開していく予定である。



Swift otd(object type definition)を通じて作り上げたjava interfaceをオラクルスワップに適した移植可能なバイナリーとソースを提供する予定である。但し、これは国際的な金融と証券モデルに発展させるためのタイプ間の交換プロセスであり、別途の追加のタイプ提案となるものと思われる。

5. 自律ウォレット生成及び独立送信機能

ビットコインの精神とモデルは非常に偉大な発展であり、そのうち、HD(Hierarchical Deterministic) Walletモデルは、非常に有意味な機能であると思う。これは個人もしくは客体を一つの金融主体として作る始まりであり、従来の伝統的な金融サービス構造の革命も意味する。

私たちのチームはファイナルチェーンプロジェクト(<https://github.com/finlchain>)を通じて、デジタル署名アルゴリズムに活用に多様性を提供する目的として、ウォレットアドレス体系に対するモデルを構築した。なお、私たちは合意ネットワークにおける証明しようとする信頼をDelegated Reputation Objectを定義して、非可逆的な性質を作るための自然語ベースのニーモニック(Mnemonic)モデルを成立し、これはディーファイストプロジェクトの重要な識別基盤ネットワーク形成に重要なモデルとして作用した。

加えて、私たちは取引にあたりウェブよりアプリケーション基盤をより好んでいます。もちろんウェブが持っている様々な長所はそのまま受け入れられるが、重要な取引処理とインターフェイスにおいて、Native Languageを活用しなければ、セキュリティ問題についてのDR(需要受け入れ)により現実的な防御手段であることを判断している。私たちのチームがたとえ小さい組織から出発したとしても、インバッド分野のARMファームウェア、ブルドーザー、ケネル及びドライバー技術とフレームワークと様々なアキテクチャー間のインターフェイスを10年以上研究し、自室的に開発してきた経験と間隔を通じて、アプリケーション基盤の重要な運営メカニズムを提供する必要を強く感じている。この過程において、人間が持っている欲望をある程度コントロールするのかという問題も併せて考慮した。独立的なウォレットシステムを構築することは、脱中央化要素を考慮したものだ。個人的に脱中央化が社会的自由と類似の性質を持っていると思う。自由を追求するものの、他人を傷つけるわけにはいかない。これは法律的な社会システムの中で、互いに規定された行動の制約を包括的に入っている。それが故、「脱中央化」というのが、制度的なコントロールが正常的なメカニズムにて作動できないことを考慮した措置の一つとして認識している理由もある。私は、サイバーパンクが個人的にあまり好まない。私たちは関係から形成されて社会の中で存在の理由を探す客体である。このことから、独立的なウォレットシステムを構成する観点は、不正なプロセスを作ることを暗黙的に容認することになるかもしれないが、追跡可能性を十分に提示する最低限の情報を取り入れる予定である。これは生成時点とウォレットの情報が移動する過程における重要な記録と情報として活用されるようにすることが。但し、このためには特別な手続きと過程を考慮した。

この特別な手続きとは、ウォレットの生成時期についての地域性を内包しなければならず、時間の情報が非常に重要であることを意味する。また、このような過程を通して作られた体系は可読性の高いコードでなければならず、個人的に数字のみでこれを表現しようとした。ウォレットの生成範囲を利合うタイム性による非可逆的な性質を利用する方式で乱数の範囲を広げる方法もあるだろうが、私は、このような過程がそのウォレットのセキュリティー観点の要素が大きいとみるが、私たちが運営しようとするウォレット体系のモデルは特定の取引基盤を通じて、解釈されるように作り上げようとしていることから、非対称キーの形態を備えていない。

これは取引の仮定において可読性の高い交換方式を提供し、識別水準を高め、対象の流れの追跡性についての可用力を高めようとするものである。また、個別の暗号資産取引についての処理は暗号資産が基本的に証明されたメインネットを通じて、取引の信頼プロセスを利用していることから、TCOの観点からアベイラビリティが高いとはみなしがたく、分散金融に適したアドレス体系のモデルをTrading Brokerの観点から提示したものと考えていただきたい。

6. PC基盤の取引専用プログラム(HTS)

取引処理に特化されたプログラムを通じて、取引信頼処理メカニズムをより精巧に構築するために、独自のプログラムを開発しました。ウェブのターミナル方式の取引より更にアビラビリティを高めるしかないのである。金融が持っているネットワークの高い可用性問題にアプローチする方法であり、この分野の専門性を高める道具としての進化を考えるためである。

7. 暗号資産のデジタル受託連動型証券

この機能は最近のDeFiトレンドと類似のコンセプトである。私たちが様々なコイン生態系に適した信託モデルを構築しており、デジタルデリバティブ金融市场に拡張するためのプログラミングインターフェイスモデルを構築した。

個人の手続きは単純にビットコインやイーサリウムを伝送して変動性資産を固定化する過程で信託行為を終えることになる。一連の行動は資産の保管と、資産の取引を特定基準を定めた上で決定させ、これにより副次的な金融デリバティブモデルに拡張することに貢献できると思われる。このような決定事項は委託や受託ではない他人にお金を預けるという点が大きい。私たちのビジネスを拡張するにあたり、受託しようとするサービスまで方向を設定するため、機能を定義、説明しているのである。

しかし、こういった他人に預けるのは取引を目的とすることから、元來の価値を保全するのではなく、その価値を利用するところから、取引過程において生じる価格の差についての交換価値は上がり下がりする可能性がある。



8. 証券OTC機能

情報の透明性と様々なリスクをモニタリングするモデルが存在すれば、OTC市場の品質向上を高めることができるだろう。全ての市場は資本誘致の通路としての限界を克服するために努めているものの、長年形成されたきた従来の資本と政治家の支配構造の下で潜在的に固着化した市場領域に対する新たな架け橋となるモデルの提示が必要であろう。

明らかにすべての分野における限界は存在する。私たちは今が最善であると主張しているわけではない。今が始まりであるというわけではない。従来の市場へのアクセスを高める戦略を通じて資本の移動の限界を克服して新グローバル金融マーケットに進化させようとする目的として作られたのである。

従来のOTCマーケットとは異なる。但し、私たちが考えるOTCのマーケットの機能が単純なSellerとBuyer間の価格提示に、必要以上に詳細情報の交換とBroker機能を要求するため、それに適したモデルを提示して、アベイラビリティの高い市場を形成するためである。

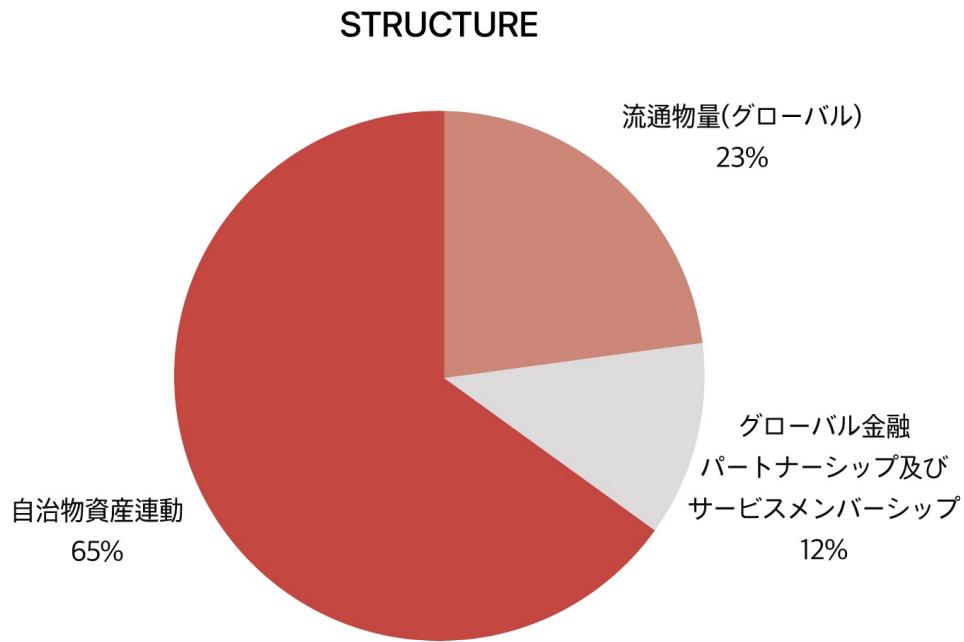
9. スマートコントラクト基盤の仮想ファンドサービス

グローバルには、様々なファンドプログラムが存在する。但し、良いファンドプログラムを私たちが簡単にアプローチしがたい。制限的な情報により参加が制限されている。また、ビジネスへのアクセスが必要な重要な資本拡充の通路も探しがたい。このような通路が地域化されており、国際的に自由な資本拡充が簡単でもない。市場の複雑さも高いものの、それに比べグローバルの資本市場の連結性はデリバティブ市場だけ証券化市場は比例しない。しかしながら、既に国際的にGDRを通じて取引環境を形成しているだけ、十分に資本を意図的に調整したり歪曲しない以上、投資目的に適したAMLとKYCにより進める必要がある。

私たちのサービスプロセスには、このような問題を自主的にスマートコントラクト基盤で構築し、これを基に店頭及びクラウドファインディングネットワーク環境の信頼プロセスを作り上げようとした。

現在のサービス水準がレベル1であるとするとレベル2の段階におけるサービスモデルとして、いくつか重要なサービスモデルが成立次第、かかる情報を公開し、ビジネスをオープンしていく予定である。

04 トーケンの仕組みと活用



- 実物資産連動(SWAP)及び暗号資産運用：債券/ファンド/先渡及び先物/現物等の価値資産を指指数型ファンドやバスケット及びCMA設定に応じるスワップ持分に関するもので、STAコインの資産と連動して運営
- グローバル金融パートナーシップ及びメンバーシップ持分：ディーファイ取引所に連携されたコイン間取引のための一種のDeposit及びパートナーシップにコイン間の交換のための持分
- 流通物量(グローバル流通)：部分欄の政策による市場のコインを取引するための初期市場構築及び循環取引のための流動性物量

05 R&BDグループ

Main Site

[STOA](#)

Main R&D

[Hackers Holdings](#)

Business Membership

[コベアグループ](#)

[IM Exchange](#)

[Live Holdings](#)

06 Founder

Roy Kim

epaper
FOUNDER

07

- 2020年9月 エストニア法人設立
- 2020年10月 STAコインをPrivate Sales
- 2020年11月 STAコインをPre Sales
- 2021年1月 BITSTOA & IM-EXCHANGEにディーファイプラットフォーム連動
- 2021年2月 オーストラリア法人設立
- 2021年3月 シンガポール法人設立
- 2021年4月 インド法人設立
- 2021年4月 STAコインを海外上場(予定)
- 2021年5月 STAコイン IEO Plan & Public Sales(予定)
- 2021年6月 韓国証券取引ベータオープン(予定)
- 2021年7月 インド証券取引ベータオープン(予定)
- 2021年8月 グローバルパブリッシング(予定)
- 2021年9月 イギリス/ドイツ証券取引オープン
- 2021年10月 ベトナム証券取引オープン
- 2021年11月 ウズベキスタン、インドネシア証券取引オープン
- 2021年12月 グローバル先物取引ベータオープン(予定)
- 2022年1月 米国およびシンガポール証券取引ベータオープン
- 2022年2月 STA Bucks取引オープン(予定)
- 2022年3月 非対面特化仲介証券会社の設立を推進(予定)
- 2022年4月 非上場OTCマーケットオープン
- 2022年5月 ディーファイ専用メインネットオープン

08 法律上の告知

本百書は、STAコイン及びプロジェクトについての全般的な内容とロードマップ及び具体的な情報を提供するための用途で作成されました。本百書は投資または契約を誘導したり、もしくは株式、持分、証券、債務、貸与または類似の購買を提案するためのものではございません。なお、関係政策、法律および規定、技術、経済及びその他要因の頻繁な変更により本百書に提供された情報は正確ではなかったり、信頼できなかったり、もしくは確定した内容ではなく何度もわたって変更され得ます。本百書は、今後、事業と財務成果に係る情報、未来予測情報とみなされる発展事項がふくまれております。「予測」、「予想」、「予見」、「意図」、「計画」、「判断」。「追及」、「予報」、「予定」、「目的」等といった単語で当該情報を区別することができます。したがって、本百書はあくまでも参考のための用途でのみ提供され、政策と技術内容について修正、変更等のアップデートは引き続き行われる予定です。

本百書にて提供された情報の正確性及び正当性についていかなる責任も負いません。購買を希望する場合、本百書にある情報のみに依存してはならないことを明確にお知らせ致します。本百書は購買者らが投資に先立ち自ら情報を分析して、調査することをお勧めいたします。したがって、投資に伴い発生する損害またはかかる損害賠償について責任を負いません。STAコインの発行に参加する行為には、今後、収益または損害事項が含まれおりません。

マネー・ローンダリング防止(AML)

ディーファイストアは透明な取引環境を作り上げるために、内部でマネー・ローンダリング防止のためのモニタリングシステムを完備しております。資金の出所が不明であったり、マネー・ローンダリングが疑われる場合、関連のアカウントと当該アカウントの買付、売付注文の締結等、取引自体が中断され得ます。ディーファイプラットフォームに脅威な強権をリアルタイムで顧客タイプ、現金取引、分散取引に伴うモニタリングを行い、対応しております。

Know Your Customer(KYC)政策

金融犯罪、不当取得のリスクを対象に、モニタリングを受けている個人と企業を事前に把握するために、危機管理データ基盤システムを導入しております。

不特定個人がSTAコインの関連サイトに会員登録の際、顧客確認制度(CDD)を経て、会員情報を綿密に把握致します。顧客確認制度は氏名、ID番号を基にしてマネー・ローンダーリングリスクが大きい場合、住所、連絡先等の実質的所有者に関する事項、高リスク顧客の場合には、金融取引目的及び取引資金の出所を確認する等、厳格な過程を経ます。万が一、セキュリティー上、犯罪及びテロと関係がある場合、当該顧客は会員登録手続きが直ちに中断され得ます。

テロ資金供与対策(CFT)

STAコインを通じて、テロ資金の調達を目的として、調達、交換及び支援活動等に参加しないことに同意しなければなりません。購買者はテロ資金の調達を目的としてSTAコインを販売、交換または処分することができないとの事実を熟知しなければなりません。